

会 報

1997年度

1. 春季大会記事

1997年度春季大会は、7月12日(土)に札幌大学・1号館119番教室において開催され、以下の日程により、研究発表、総会が行われた(参加者44名)。

●研究発表(午前の部)

土井 時久・長南 史男・近藤 巧(北海道大学大学院農学研究科):ネパール・ジャナクプル地域の灌漑開発援助と農業の変化

初沢 敏生(福島大学教育学部):北海道におけるブティックの特徴と生産機能

高橋 徹(北海道教育大学(院)):ニュータウン開発による混住化の特性 -佐倉市ユウカリが丘を事例にして-

菊地 達夫(札幌創成高校):ファッション性を有する都市型スキー上の経営戦略 -スノークールオーズスキー場を中心として-

●研究発表(午後の部)

荒木 一視(旭川大学経済学部):生鮮野菜輸入の地域構造とフードシステム

小松原 尚(北海学園北見大学):釧路湿原地域における観光拠点利用パターン

なお、高橋徹氏の研究発表の内容は、会誌71号に研究ノートとして掲載され、その他の発表は要旨が今号(72号)に掲載されている。

●総会

1996年度事業報告:

幹事長より1996年度事業報告と決算報告がなされ、また会計監査より監査報告があり、いずれも承認された。事業報告では、春季・秋季学術大会開催、会誌71号発行のほか、会誌名「北海道地理」の変更の是非に関り、前年度総会において結論が出ず、広く会員のアンケートなど調査活動を行い、1997年度総会に結論を提出することとされたので、当該年度に会員全員にアンケートを実施して検討したことが報告され、別に会誌名変更の是非に関わる案件として提案する旨、報告された。

1996年度決算報告:

◇通常予算分

(収入)	
繰越金	350,494
会費収入	545,000
雑収入	105,240

計	1,000,734
(雑収入内訳: 広告料 100,000 会誌売却 4,000 預金利子 1,240)	
(支出)	
会誌 No.71印刷費	460,000
著者別刷補助	20,000
事務費	18,414
通信費	77,990
謝礼	20,000
秋季大会補助	20,000
会議費	1,692
予備費	0
計	618,096

次年度繰越金 382,638

◇特別会計分(北海学園大学より春季大会補助)

(収入)	
北海学園大学より春季大会補助(1996年度)	80,000
計	80,000
(支出)	
封筒等印刷費	39,883
宛名ラベル用紙	12,792
記念講演題目書筆代	1,648
会場運営費	25,677
計	80,000

1997年度事業計画:

まず、開催中の1997年度春季大会のほか、秋季大会については中空知の旧産炭地域の炭鉱閉山以後の地域変化をテーマとした巡検を計画していること、次に例会については、会員の研究報告はもとより、会員以外についても北海道外あるいは海外より研究者が来道された機会に講演形式で行うことが可能であるので、その際は事務局まで連絡いただくこと、最後に会誌72号を発行すること、その際、会誌名「北海道地理」の変更の是非(表紙デザインについても)については会員に対してのアンケート調査に基づき提案したい旨報告があり、了承された。

会誌名「北海道地理」の変更の是非と表紙デザインについて:

幹事長より、標記に関するアンケート調査の集計結果をプリントにより報告された。集計結果の概略は次のとお

りである。

182名の会員に対するアンケートの回答数は回答期間を1カ月延長したものの56通(回答率:30%弱)と少なかった。回答のうち会誌名変更に賛成は15通、反対が25通、不明が16通であった。賛成の理由としては、「北海道中心の地理学と受け取られるので全国に通用する誌名を」が多く、また反対の理由としては、「現誌名『北海道地理』は長年親しんで馴染みがある」、「道内のテーマがベースであるのは当然」、「誌名に関係なく学術雑誌ともなれば広い地域、広い分野を扱うのは当然」などであった。不明の理由としては、「よい誌名が見当たらない」、「賛否の前提として対案(具体案)が必要」などであった。また賛成意見、反対意見、不明意見に共通して表紙のデザイン、誌面の体裁の改善を求める意見が多く、11通を数えた。最後に本会の運営方向に関する意見では、「大会発表のプログラムを事前に配布してほしい」、「大会発表数を増やすべき。集会数を増やして存在感を示すべき」、「もっと質のよい『北海道』研究を」などであった。

幹事長より、以上のアンケート集約結果に基づき、会誌名は現行のままとし、また会誌71号より誌面の体裁については改善を行い、投稿規定も改訂しているので、会誌表紙のデザインを会誌72号より変更する方向で検討したい旨提案があり、了承された。会誌表紙のデザインの検討については、幹事会を中心に多方面のデザインを参考にしながら行うこととした。

1997年度予算案：

◇通常予算分

(収入)

繰越金	382,638
会費収入	473,000
雑収入	83,500
計	939,138

(雑収入見込み：広告料 80,000 会誌売却 2,000 預金利子 1,500)

(支出)

会誌 No. 72印刷費	460,000
著者別刷補助	50,000
事務費	50,000
通信費	80,000
謝礼	40,000
秋季大会補助	40,000
会議費	7,000
予備費	212,138
計	939,138

◇特別予算分(札幌大学からの春季大会補助)

(収入)

札幌大学よりの春季大会補助 (1997年度)	100,000
計	100,000
(支出)	
封筒等印刷	50,000
宛名ラベル用紙	13,000
揭示物書筆謝礼	5,000
会場運営費	30,000
会議費	2,000
計	100,000

顧問の推薦に関する申し合わせと新たな顧問について：
幹事会より、本会顧問の推薦に関する会則8条の規定では推薦の基準が明瞭ではないので、「本会の発展に著しく貢献した会員で、総会提案時に満75歳以上」の基準を、会則8条はそのままとし、総会における申し合わせ事項として実施は1997年度、すなわち本総会からにしたい旨提案があり、承認された。これを受けて、本会元会長で満75歳以上の奈良部理・柏村一郎・沼田武の3会員を新たな本会顧問として幹事会より推薦があり、承認された。

役員改選(1997-1998年度)：

任期満了に伴い、1997-1998年度の役員改選が行われた。

会長	土井 時久
副会長	寺田 稔
〃	三好 勲
会計監査	酒井 多加志
〃	高平 順夫

なお、新会長より次の幹事が委嘱され、互選により以下の役割分担とした。

幹事長	大内 定
幹事(編集)	進藤 賢一
〃(〃)	山下 克彦
〃(〃)	橋本 雄一
〃(〃)	高橋 伸幸
〃(集会)	羽田野 正隆
〃(〃)	菊地 達夫
〃(庶務・会計)	山内 正明

●大会記念講演

大会記念講演は、堀淳一氏(地図研究家)による演題「Alpenvorlandの氷河地形を歩く」を予定していたが、堀氏の急なご病気により中止となった。

2. 秋季大会記事

1997年度秋季大会は、札幌地理サークルとの共催により、9月27日(土)に巡検を中心として次のテーマとコースにより行われた(参加者29名)。巡検の内容は今号に巡検報告

として掲載されている。なお、現地にてご案内いただいた地下無重力実験センター(株)技術課長・大橋隆一氏、および赤平市100年史編纂室・相良主彦氏に感謝申し上げます。

テーマ：「中空知の旧産炭地域(砂川・上砂川・歌志内・赤平)の変容」

コース：南郷18丁目出発(9:00)－札幌IC・奈井江IC
經由－砂川オアシスパーク－上砂川町市街地(炭鉱生活館・無重力科学館, 地下無重力実験センター)－歌志内市街(文殊工業団地, チロルの里, 本町市街)－赤平市街(蘭栽培施設, クリーニング工場, その他赤平市街の観察)－滝川IC經由－南郷18丁目帰着・解散(17:00)

案内者：山下克彦・大内定(北海道教育大学札幌校), 三好勲・武田英俊(札幌稲雲高)

現地案内：大橋隆一氏(地下無重力実験センター(株)技術課長), 相良主彦氏(赤平市100年史編纂室)

3. その他

・会員消息(会誌71号掲載以降, 順不同, 住所等は会員名簿に記載)

入会:

中野泰敬(北海道教育大学札幌校(院)), 廣長忍(北海道教育大学札幌校(院)), 大澤勝文(釧路公立大学経済学部), 平川一臣(北海道大学大学院地球環境科学研究科), 深澤京子(北海道大学大学院地球環境科学研究科(院))

会員異動:

土井時久(北海道大学大学院農学研究科→岩手県立大学総合政策学部), 小林和夫(釧路公立大学退職), 高橋徹(北海道教育大学札幌校(院)→修了後, 現在無所属), 伊藤啓之(北海道教育大学旭川校(院)→修了後, 現在無所属), 畠山義臣(余市町東中学校→余市町西中学校), 寺田稔(北海学園大学教養部→改組に伴い同大学共通教育研究センター), 高橋伸幸(北海学園大学教養部→改組に伴い同大学工学部), 成田仁(北海道教育大学旭川校(院)→留萌市沖見小学校), 小杉健三(山口大学教養部→同大学退職に伴い同大学教育学部(非)), 荒木一視(旭川大学経済学部→山口大学教育学部), 内田隆(北海学園大学(非)退職), 鴨志田勇(札幌創成高校→札幌市立高等専門学校学生課), 相原靖(札幌丘珠高校→札幌創成高校), 榊原正文(小樽商業高校→小樽桜陽高校), 石垣友博(上越教育大(院)→(株)電気車研究会), 小石秀一(北海道教育大学函館校(院)→函館市立的場小学校), 成瀬剛慈(厚岸町立尾幌小学校→釧路町立富原中学校)

退会:

門村浩(立正大学文学部), 平田一三(旭川西高校), 武石文人(札幌学院大商学部(非)), 木村光夫(元旭川工業

高専), 山本光明(鶴川小学校退職), 中本憲治(北海道文理科短大), 松本光(倶知安高校退職), 根田克彦(奈良教育大学), 山本博(農水省草地試験場山地支場)

● 訃報

本会会員, 中嶋義郎先生は, 1997年8月24日, 大腸癌のため享年66歳をもって逝去された。先生は1953年に北海道学芸大学札幌分校(地理学専攻)ご卒業後, 厚沢部高校, 函館商業高校, 帯広市立南高校の社会科教員をご歴任, 1991年3月に帯広緑陽高校を最後に退職されるまで38年の長きにわたって教鞭をとられ, 地理教育・社会科教育に尽力された。また, 1954年の本会創立時よりの会員でもあられた。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

● 学会よりのおもな会誌配布先(交換も含む)

日本地理学会, 人文地理学会, 東北地理学会, 福島地理学会, 北海道立文書館, 北海道立図書館北方資料室, 北海道大学図書館北方資料室, 北海道教育大学本部図書館, 札幌大学図書館, 北海道開拓記念館資料室, 北海道地下資源調査所, 古今書院編集部, 大明堂編集部, シカゴ大学極東文化研究所資料室, 東京都立大学図書館, 国立国会図書館, 地理教育研究会(筑波大学附属駒場中等学校内)

◎ 学会事務局からのお願い

● 会費納入のお願い

1998年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には, 円滑な学会運営のため納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入額のある方は, 1998年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。なお, 本号と行き違いですすでに納入済みの際はご容赦ください。

● 所属先, 自宅住所の変更

変更になった会員には, それぞれの住所, 電話番号を書き添えの上, 学会事務局までご連絡ください。

北海道地理学会会則

- 第1条 本会は北海道地理学会と称する。
- 第2条 本会は地理学についての研究を目的とし、併せて地理教育にも資する。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。
研究助成、研究発表、調査、講習、講演、研究報告書刊行など。
- 第4条 本会に入会するときは当該年度の会費を添え申込むものとする。
- 第5条 会員が退会するときはその旨を本会に通知すればよい。
- 第6条 本会に次の役員を置く。
会長1名、副会長2名、評議員若干名、監査2名、幹事若干名。
- 第7条 役員のうち会長、副会長、監査は会員の互選によって決定し、評議員、幹事は会長の委嘱による。
- 第8条 本会に顧問を置くことができる。顧問は幹事会の推薦により、総会の承認を得る。
- 第9条 総会は毎年1回開催し、予算決算の審議、役員を選出、その他の重要事項について審議する。
- 第10条 役員会は必要に応じ随時開催する。
- 第11条 会員は会費年額3,500円を負担する。但し学生会員は年額1,500円とする。学生会員は、学部学生、大学院生、研究生などとする。
- 第12条 本会の事務局は当分札幌に置く。
- 第13条 本会は札幌、函館、旭川、釧路に支部を置く。
- 第14条 この会則の変更は総会の決議によって行うものとする。
- 第15条 会計は4月1日より、翌年3月31日までとする。

附則

- 本会会則は昭和25年12月1日から実施する。会則第5、6、9、11、12、15、16条、第17回総会で改正。
会則11条改正（1981年6月）。
会則11条改正（1987年6月）。
会則11条改正（1993年6月）。